

文教いしかわ

No. 69

URL <http://www.bunkyo.or.jp/>

- 特集 -

2頁：「中学校武道必修化に期待する」

全日本剣道連盟常任理事・石川県剣道連盟副会長 末平 佑二氏

3頁：「児童生徒のインターネット利用について」

石川県教育委員会事務局学校指導課 課長補佐 石倉喜八朗氏

4・5頁：インタビュー「人」

ヴァイオリニスト 西澤 和江氏

石川県文教会館開館30周年 記念式典 & スペシャルコンサート



石川県文教会館は、昭和58年12月に本県教育の振興、発展に寄与することを目的に、県民の方々の熱い期待を受けて開館して以来、教育関係者並びに教育関係団体の自主的な研究・研修活動の場として、また、県民の交流拠点としてその歴史を刻んでまいりました。

おかげさまで、今年で開館30周年を迎えることができ、皆さまへの感謝を込めて平成25年11月28日(木)に記念式典とスペシャルコンサートを当館ホールにおいて開催いたしました。

◆記念式典

はじめに主催者である公益財団法人石川県文教会館の木下公司理事長から「当館への県民の皆様の温かいご理解とご支援をはじめ、関係各位のご尽力に深く感謝を申し上げ、30周年を節目として、今後さらに県民の皆さまが学びの場として気軽に集い、幅広い目的でご活用いただける施設となるよう努めてまいります。今後とも一層のお力添

えをお願い申し上げます。」と挨拶が述べられました。

次に当館の近藤繁彦館長から「文教会館30年のあゆみ」と題して、当館設立の意義・目的をはじめ、これまで行ってきた教育講演会や海外ホームステイ研修、文教クラシックコンサートなどの事業、そして現在展開されている文教国際理解講座や文教アートウェイブ、教育資料収集整理事業等についてスクリーンの画像で紹介されました。

◆スペシャルコンサート

はじめに「児童による合唱のしらべ」では、平成25年度NHK全国学校音楽コンクール石川県コンクール金賞受賞校の金沢市立千坂小学校の3年生から6年生の児童51名の皆さまに、山田比代子先生の指揮の下「同コンクール課題曲 ふるさと」「アメイジング・グレイス」など6曲をご披露いただきました。児童の皆さまのすばらしい歌声に会場はこの上なく崇高な感動に包まれました。

次に「弦楽四重奏と能舞の共演」では、江野泉さん(笛)、麦谷暁夫さん(太鼓)による一調一管「獅子」で華やかな幕開けとなり、渡邊茂人さん(シテ)による舞囃子「神舞」で祝賀の雰囲気になりました。その後オーケストラ・アンサンブル金沢メンバーの坂本久仁雄さん(ヴァイオリン)、トロイ・ゲーギンズさん(ヴァイオリン)、石黒靖典さん(ヴィオラ)、大澤明さん(チェロ)による弦楽四重奏「ハイドン『皇帝 第2楽章』」や「ドヴォルザーク『アメリカ』」などお馴染みの名曲4曲の演奏とその合間の演奏者のユーモア溢れるトークに会場は一段と盛り上がりました。最後の「モーツァルト『アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第2楽章』」の演奏と能舞のコラボレーションでは優雅で幻想的な世界が400名の観客の皆さまを魅了しました。



多くの皆さまにご来場いただきましてまことにありがとうございました。今後とも文教会館へのご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。



中学校武道必修化に期待する

全日本剣道連盟常任理事・石川県剣道連盟副会長

剣道範士八段 末平 佑二

1 伝統と文化の香り

武道には長い伝統と歴史や文化を感じさせてくれる生活に根付いた言葉が数多くあります。

弓道の写真の女性が右手にしている革の手袋、指を弦から守るもので、弓矢と同じくらい大切に扱われるのですが、名前をご存知でしょうか。

鏝(めがけ)又は「かけ」といいます。大切なもの、ほかに代わるものがないということから、「かけに代わるものがない」、そして「かけがえのない」という実にきれいな言葉が生まれました。

剣道も歴史が古く、たとえば「鎧(しのぎ)を削る＝激しく争う」「切羽(せっぱ)詰まる＝物事がさしさまって窮する」など、日本刀に関する言葉が多くあります。でも「かけがえのない」には及びませんね。



2 武道必修化の経緯と現状

平成18年に教育基本法が60年ぶりに改正され、「わが国の伝統と文化を尊重する態度を養う」という教育目標のもとに学習指導要領が改訂されました。平成24年度から全国約11,000校すべての中学校の保健体育1、2年生の授業で武道が必修となり、まもなく2年目を終えようとしています。

武道をはじめとする日本の伝統文化はすべて、忍耐力や自制心を養うようにできていると言われます。我慢する力や自分の気持ちをコントロールする力が、いまの子どもたちの多くに欠けているという状況が少しでも打開されるよう、学習指導要領の目標に沿った指導者研修会がここ数年積極的に行われています。

3 武道の特性から

武道は基本的に、「相手」の存在を前提にして学習内容が体系化されており、

- ① 相手と正対して向き合い、視線を外さない
- ② 稽古の相手をしてくれる人に、心を込めて礼をする
… 相手を尊重する
- ③ 腹の底から大きな掛け声を出す (特に剣道)

… 護身、自分を守ることにつながる
などといったことが普段から求められます。

技の多様性や難しさから、初歩の段階では特に基本動作



をしっかりと身につけることが要求されます。仕込み期間が長く、指導者に従って正しい過程を踏んでいかなければ、高みに到達することが難しいという面を持っています。加えて、遊びの要素が少ないことや指導者自身の率先垂範や自己研鑽が強く求められるのも特性の一つと言えます。

4 研究発表例から

平成23年度に小松市立松陽中学校が、剣道授業で文部科学省の研究指定を受けました。外部指導者(剣道七段、上級公認スポーツ指導員)の協力を得て、担当教員とのチームティーチングで授業が進められ、最後は全国に案内して発表会も行われました。

授業開始当初、1年生の不安定な姿勢が目につきましたが、最後の発表会では、背すじの伸びた正座、気合いの入った身のこなし、そして何よりも以前よりたくましくなった中学生の表情を見ることができました。



バスケットボール専門である担当教員の先生が取り入れた「武道的素養となる遊びの体験(サムライごっこ)」や音楽に合わせて竹刀を振る「リズム剣道」は柔軟な発想の学習内容で、導入段階では極めて効果的でした。外部指導者による「示範の技」から、生徒たちは自ずと「伝統的な行動の仕方」を学びました。

もう一つは千葉県の中学校の例です。普通、剣道の授業は秋から冬にかけて行われるケースが多い中、4月早々に剣道の授業を実施したところ、子どもたちは年間を通して凛とした姿勢と大きな声で挨拶を行うようになり、学校全体に活気とさわやかさが生まれたという実践報告でした。武道の特性が生活指導にも生かされた例でしょうか。



5 おわりに

中学校とは異なりますが、大寒の頃を迎えると、県立武道館における金沢桜丘高校の寒稽古風景が毎年マスコミから報道されます。

数年前、武道館勤務の折に高校生に感想を聞くと、「朝早く床も冷たかったが、一生懸命相手に集中することで冷たさを感じなくなった。いい体験でした。」と答えてくれました。今後活かされるものが少なからず身につけていると感じました。武道の教育効果をこれからも期待したいものです。



児童生徒のインターネット利用について

石川県教育委員会事務局学校指導課

課長補佐 石倉喜八朗

近年、スマートフォンやタブレットをはじめ、音楽プレーヤーやゲーム機などを含めた電子情報端末機器の普及と無線LAN環境の整備により、いつでもインターネットに接続できる環境になり、児童生徒にとってこれまで以上に莫大な情報に容易に触れる機会が増えてきています。そのため情報の信憑性や価値を正確に評価し適切に活用する能力と言われているメディアリテラシーを早い段階から身につけていくことは今後ますます重要になってくると考えられます。

一方、ネット依存や様々なネットトラブルに対しては、これまで以上に問題点が増えておりますが、今回は以下の3点について記載させていただきます。

1 スマートフォン・無線LAN (Wi-Fi)の普及について

これまでの携帯電話（いわゆるガラケー）は、通信事業者のフィルタリング機能を活用することで有害情報を制限することが可能でしたが、自宅の無線LANなどを利用してインターネット通信を行う場合、フィルタリングはかかりません。スマートフォンやタブレットのみならず、音楽プレーヤーやゲーム機なども無線LANを使用できる機器が普及してきていますが、そのままの状態で使用するとフィルタリングはかからず、ウィルスに対しても無防備な状態であります。小・中学生の携帯電話やスマートフォンの所持率は低いものの音楽プレーヤーやゲーム機などにより危険な状態のままインターネット通信をしている児童生徒が増加しています。このような機器も与える前に親子でルールを決め、フィルタリング機能及びウィルス対策アプリを本体に導入すること、OS（オペレーションシステム）を最新の状態にアップデートすること、アプリをダウンロードする際は信頼できるサイトからダウンロードするとともに、安易にインストールせず、アクセス許可の項目など確認してからインストールすることなどが必要となります。

また、自宅で写真を撮りネット上にアップすると、GPS機能により位置情報も添付され、ストーカーに自宅を突き止められるという被害もあるため、ネット上への情報提供については、危険性に関する基本的な知識と慎重な対応が必要となります。

2 無料通信アプリの使用について

スマートフォンの普及とともに急速に浸透している無料通信アプリにより、新たな課題が出てきています。便利なツールではありますが、安易に初期設定をするとアドレス帳のデータが自動で業者に送信され、勝手に友だちが追加される、知らない人からのメッセージがくるなど様々なトラブルが発生しています。まず、使用する際には初期設定を慎重に行うことが必要であり、「友だ

ち自動追加」や「友だちへの追加を許可」はオフに設定すること。固有の番号となるIDを知らない人と交換したりネット上に公開したりしないこと、「IDの検索を許可」をオフにすることなどの対策が必要です。

次に、これまでの誹謗・中傷に関する書き込みに加え、グループから仲間外れにされるというネットいじめの問題が発生しております。また、連絡を見たことが「既読」として送信者に伝わるため返信しなければならないとの思いから延々通信を続け疲弊するなどの問題もあります。グループ内での送信内容は外部からの検索はほぼ不可能であること、基本的な人間関係やコミュニケーションの問題に起因することなどからこれまで以上に子どもたちには情報モラルや直接的なコミュニケーションの大切さを指導する必要があります。

3 ネット依存について

厚生労働省から委託された研究班が推計で約51万8千人の中高生がネット依存であるという結果を平成25年8月に発表しました。

ネット依存について専門的に研究している国立病院機構「久里浜医療センター」の院長先生に話を伺うと、

- ・ ネット依存が進むと睡眠障害や過食・拒食によるメタボ、体力低下、視力低下などの健康問題、不登校や少年非行等の学業・社会問題、家庭内でキレて暴れる、家族の団らんがなくなり異様な雰囲気になる、などの家庭問題が生じてくる。
- ・ 比較的短期間で本人が気づかない間に依存状態に陥り、ごく普通の子が通院・入院していることから誰でもなり得る。また、一旦依存状態に陥れば、なかなか元に戻れない。
- ・ アルコール依存は完全に断ち切るという治療法となるが、ネット依存は「減ネット」を意識すること、機器を与えるときに家庭において、親子で話し合ってルールを決め、インターネットとは何なのかを考えさせることが大切である。
- ・ ネット依存になった場合は第三者（医療機関等）に相談することや同じような家族と交流するとよい。

などの話を伺うことができました。

なお、病院は半年先まで予約が埋まっているほど患者や相談は増加しているとのことでした。

最後に、大人がメディア機器や情報の特質などに対する理解不足から対策が後手になる場合もあります。まずは、これらの仕組みを理解したうえで子どもたちに指導するとともに、保護者に対して、子どもに機器を持たす前に条例や使用に関する注意点などについて周知・啓発活動が必要となります。



ヴァイオリニスト 西澤 和江 さん



石川県立金沢二水高校から東京藝術大学へ進み、同大学大学院音楽科研究過程を修了。第56回日本音楽コンクール・ヴァイオリン部門で第1位入賞、第22回ロン・ティボー国際コンクールで第3位に入賞するなど数々の賞を受賞。現在、国内外で多くのリサイタルやオーケストラとの共演など幅広くご活躍をされていらっしゃる西澤和江さんを当館にお招きし、ヴァイオリンとともに歩んでこられた道や今後の抱負などについてお話しを伺いました。

インタビュー 石川県文教会館 館長 近藤繁彦



近藤 3歳頃からヴァイオリンを始められたとのことですが、そのきっかけはどのようなことだったのでしょうか。

西澤 私の叔母さんと母がヴァイオリンの演奏レコードを一緒に聴いていたところ、その演奏がとても素敵で私にはヴァイオリンを習わせたらどうかという話になり、母が私を市内にあるヴァイオリン教室に連れていったのが始まりのようです。

— 鷺見三郎先生との出会い —

近藤 著名なヴァイオリン指導者である鷺見三郎先生のレッスンを受けるようになった経緯についてはいかがですか。

西澤 小学校に入学する頃、父の知り合いの方が或るヴァイオリンの先生を紹介してくださり、その先生が更に鷺見三郎（すみ・さぶろう）先生を紹介してくださり、大阪で初めてレッスンしていただいたのが小学2年生の頃でした。そのレッスンを終わった直後に鷺見先生は、「明日までに、指定したところの楽譜をみておきなさい」とおっしゃって、翌日にその課題を先生の前で全部弾いたのでした。おそらくその時鷺見先生は、演奏技術だけではなく楽譜を正しく読めるか等の基礎的な能力があるかどうかを見られたのではないかと思います。

近藤 すごい先生のお眼鏡に適ったのですか。レッスンは、どのようにされていたのですか。

西澤 低年齢の頃は基礎的な勉強において手がかかる時期ということで、月2～3回程度大阪へレッスンに通いました。中高生になると、東京へ月1回通うことになりました。夜行列車に乗り明朝上野駅に着いて、午前中にレッスンを受けて、帰りは新幹線でその日のうちに金沢に戻り、次の日の朝には学校に登校していました。

近藤 練習についてどのように感じていましたか。

西澤 レッスンに通うことの苦痛はありませんでしたが、遠方まで労力かけてレッスンを受けに行くという両親の苦勞を感じていたこともあり、練習してレッスンで習ったことができるようにしないとただではすまないという思いからも、それなりの練習はしていたと思います。

近藤 鷺見先生はどのような先生でしたか。

西澤 鷺見先生はその頃はもうご高齢でしたが、一言もおっしゃらずに目の前にいらっしゃるだけでも背筋がピンとなり、演奏はもちろんのこと、すべてごまかしは利かないといったような緊張感がそこにはありました。先生は演奏についてお褒めになることはあまりありませんでしたが、レッスンの時、一度だけはとても褒められたことがありました。

近藤 厳しい練習だったと思いますが、何が自身を支えていたのでしょうか。

西澤 もともと音楽が好きで、そして素晴らしい先生にご指導いただける出会いがあり、先生に勧められてコンクールに参加

させていただき入賞も頂いたりするうちに、ヴァイオリンという楽器が私にとって自信を持たせてくれる存在になり、そして一歩ずつ継続していったのだと思いますね。

厳しい練習を支えたことといえば、まず素晴らしい演奏を聴いたときの感動と憧れはもちろんのことですし、遠方までレッスンを受けさせてくれた両親への感謝の気持ち、そして努力したことが発表会やコンクールなど人前で力を出し切れたときや、お客様の温かい声援や励ましの言葉を頂けたときの喜びが、演奏に向けての大きなパワーとなっていることですね。

— 学生時代とコンクール —

近藤 高校時代に出られた日本音楽コンクールについての思い出はいかがですか。

西澤 高校1年生の時に初めて日本音楽コンクールに参加したところ、思いもよらず3位入賞を頂き、その結果、2年後の高校3年生でもう一度挑戦することになりました。その時も、鷺見先生がその年のコンクールの課題曲を見てくださり、コンクール参加を勧めていただいたのでした。

再び同じコンクールを受けることになったことにおいては、やはりその間の2年間の自分の成長が問われることにもなると自覚していたため、「前回よりも演奏内容がしっかりしていないと、再度同じコンクールを受ける意味もない」というほど覚悟して臨まないといけないと感じていました。また本選では初めてオーケストラとの協奏曲の協演だったこともこれまでとは大きな違いでした。結果が1位だと確認したときは素直に嬉しかったです。念願の結果でほっとしていましたね。

近藤 このコンクールをどのようにとらえましたか。

西澤 この受賞により、これから演奏家として活動していく1つのステップとしてのチャンスを与えていただいたのだと考えていました。つまり、これから世の中のお客様に自分の演奏を聴いていただける機会をもらえるチャンスだということですね。

近藤 西澤先生には高校3年生の時に、そのコンクールで見事1位になられた後に当館の第8回文教クラシックコンサートにご出演していただき、多くの観客の皆様を魅了し、心をつかまれました。

近藤 金沢二水高校時代の思い出は。

西澤 学校の中庭でたくさんの友達と一緒に弁当を食べたりしたことや、部活で部員のひととお菓子を買いにいたり、コンクール受賞のあと、体育館で全校生徒の前でヴァイオリン演奏をしたことなど、その他楽しかった思い出がいっぱいありますね。それから何年経っても自分のことを忘れずにいてくれる大切な友達ができました。

近藤 そして東京藝術大学に進学されましたが、その頃の思い出はいかがですか。

西澤 高校のときは環境が変化し、音楽の勉強を中心に自炊などの生活面に慣れることから始まり、そのことで1年目が経ち、2年目にはそういったことにも慣れてきて、更に国際コンクールへの参加など将来の目標を見据えた上で準備をしながら学生生活を過ごしていました。大学3年の時に、大学の先生から世界四大コンクールの一つであるロン・ティボー国際音楽コンクールへの参加を勧めていただきました。藝大に入学する前に日本国内のコンクールを受け終えていたので、その次の目標となると国際コンクールに参加することでした。

大学時代は周囲のことには全く気がいかず、まるで学校と自分の住んでいるマンションの往復のみのような日々を過ごして



いましたが、たまに驚見先生の門下生の発表会で演奏させていただき、大変良い勉強になりました。

近藤 ロン＝ティボー国際音楽コンクールで3位という素晴らしい成績でしたが、その思い出はいかがでしょうか。

西澤 コンクール開催が10月でしたので、知人から「パリの街の紅葉がとても美しいよ！」という話を聞いて、パリの街を観ることも楽しみにしていましたが、一次予選の前に風邪気味になってしまいました。それで、駄目で元元

と思っていたのですが、「折角、このコンクールに向けてここまで頑張ってきたのだから、せめて、必ず出場できる一次予選だけでも悔いのない演奏でベストを尽くそう！」と思って舞台に立ちました。

その一次予選の演奏の成績がとても良くて、二次予選、本選と次々と順調に通過し、本選では、オーケストラとの協演とピアニストとのリサイタルプログラム、という2つのステージをこなしました。おそらく、風邪気味になったことで身体を休めたことが逆に良い結果に繋がったのかもしれない。

二次予選では、一次予選よりも舞台を楽しみながら演奏できたような気がします。本選では、素晴らしい大ホールでオーケストラと協演ができ、演奏終了後は聴衆の方々の温かい拍手や声援を頂き、その舞台で演奏できたことだけでもとても嬉しかったですね。

— 演奏家・指導者としての思い —

近藤 演奏活動に入られてからのお気持ちはいかがでしょうか。

西澤 演奏を聴いていかれる方に演奏をどのように感じてもらえるかということ、すなわち心が豊かになられたり癒されたり感動したりしてお家に帰っていただけるか、といったことを大切に演奏活動を続けていきたいと思っています。

近藤 高校生など若い方へヴァイオリンを指導されていますが、その思いはいかがでしょうか。

西澤 生徒さんを指導するという事は、生徒さんの演奏状態をよく把握していないといけませんので、自分が演奏する事とは異なった難しさがありますが、生徒さんが夢をもってヴァイオリンの練習に取り組んでいること、また、コンクールに参加したい等、生徒さんのいろいろな希望に対してすべて適切な指導と対応をしていきたいと考えております。生徒さんやご両親にヴァイオリンを習って良かったと感じていただけるような指導でありたいですね。

近藤 先生の指導の方針は。

西澤 生徒さんを指導していて感じたことですが、レッスンで褒めるとよく練習してくる生徒さんと、褒めないほうがよく練習してくる生徒さんがいるような気がします。つまり、生徒さんに合わせて、良い方向に向かっていけるようにしていくと良いのでしょうか。ガツンと叱ると次のレッスンにはしっかり宿題をこなしてくる生徒さんもいます。

ある時、コンクールを受けたいと言ってきた生徒さんに、レッスンの時に「そのような弾き方ではおそらく予選は通過できないと思う。予選通過できないような演奏をコンクールで演奏してくるくらいならばコンクール参加は許しませんよ。」と厳しく言ったところ、その生徒さんはコンクールに参加したい一心で、一生懸命に課題曲を見事に仕上げ予選を通過したんですね。更に本選ではお陰様で1位を頂きました。とても厳しい言葉だとは思いましたが、予選通過という目標を達成するには、その生徒さんにとってその厳しい一言が返って良かったのかもしれないですね。

近藤 その子の心に火をつけ、やる気を起こさせることができればいいですね。

西澤 生徒さんの中には、趣味として楽しみながらヴァイオリ

ンを習っている方もいらっしゃいますが、将来プロを目指したい等の場合は、充分な演奏能力を身に付ける為に甘くならずに見守ることも必要になってくるでしょうね。

近藤 後輩の皆さんに贈る言葉をお願いします。

西澤 今の若い方々は、低年齢からしっかりと演奏技術を磨いていますので、演奏技術の習得のみならず、音楽をより一層感じ、そして素晴らしい音楽を創っていくための豊かな心も磨いてほしいですね。

— 今後の演奏活動への抱負 —

近藤 音楽を離れたご趣味はいかがですか。

西澤 美味しい食べ物を食べたり、ベットに癒されたり、気分転換できる趣味も大切にして、仕事の疲れや緊張感をほぐして心身ともに元気になるようなことを続けています。

近藤 ヴァイオリン観やクラシック音楽観などいかがでしょうか。

西澤 例えばプロ野球やサッカー等では、大きな競技場の場内を埋め尽くすほどの数多くの観客が集まっている状況をテレビで見掛けますが、私たちクラシックのコンサートも、一般の方々にもっと関心を持っていただけるようにと思うことがありますね。スポーツでは点数等で良し悪しをわかりやすく判断できますが、それとは異なり芸術はわかりにくいということもあるのかなと思います。

ですが、演奏後にお客様から直にいろんな感想を頂くときがあり、良い演奏のときのお客様の反応はやはり格別です。そんなお客様との出会い、そしてコンサートを積み重ねることで、クラシックのファンが更に増えるといいですね。

近藤 今後の目標についてお聞かせください。

西澤 ひとつひとつの積み重ねを大事にしていきたいと思っています。継続することが力になっていくことでしょ。そして更に進化し成長していきたいですね。若い時は力一杯ステージに立っていましたが、年齢を重ねるごとに身体の力が抜けてきて、その分以前より異なった感覚で新たに演奏に臨んでいきたいと思っています。

近藤 県民の皆さんにメッセージをお願いします。

西澤 演奏家は演奏しているだけでは成り立たないもので、その演奏を聴いてくださる方がいらっしゃってこそ演奏活動ができます。県民の皆さんに感心を持っていただけるような演奏活動を目指し努力してまいります。今後もコンサートにぜひお越しいただいて、何かを感じパワーアップして元気になっていただけたらと思っています。

近藤 この20数年の間に、先生のご活躍をはじめとして石川県に縁のある方やオーケストラ・アンサンブル金沢の活動のお陰で本県にクラシック音楽が随分と浸透してきていると感じています。北陸新幹線開業も間近で、東京・金沢間が2時間半となります。是非とも本県で先生のコンサートが数多く開かれ、県民を魅了してくださることを願っております。今後ますますのご活躍をお祈りしております。本日はまことにありがとうございました。



2013年度教育資料収集整理事業報告

文教会館開館30周年記念ロビー展

「文教会館所蔵 教育物具展 ～学校教育の足跡～」

「いしかわ教育ウィーク」関連行事

会期：11月1日（金）～7日（木）

今回のロビー展では、当財団が所蔵する小中学校で使用された児童机や給食用器、オルガン、統廃合された学校の校旗、本県出身のオリンピック選手のユニフォーム等の教育物具を中心として320点を展示しました。時間制作成板や旧制学校のアルバムなどから当時を懐かしむ方や、ガリ版（謄写版）や蠟原紙、鉄筆を珍しそうに見入る方など、期間中、700名を超える多くの方にご覧いただきました。様々な時代の教育活動の一端を知っていただくとともに本事業への関心と理解を高める機会となったのではないかと考えています。



★教育資料は閲覧ができ、学校等への貸し出しも行ってあります。

事前に文教会館TEL.076-262-7311までお問い合わせください。蔵書リストは、当館ホームページからご覧いただけます。

教育史セミナー開催

演題「“それは何故か” 史料を追い求めて六十年」



教育ウィーク期間中の11月6日（水）、当館401会議室において、農学博士 清水隆久氏（元県立図書館長、元県立金沢女子高等学校長）にご講演いただきました。

清水先生は現職時代から農書に関する膨大な研究を行い「近世北陸農業史-加賀藩農書の研究-」「百万石と一百姓 一学農 村松標左衛門の生涯-」など多数の著書を執筆されていらっしゃいます。

その農書の魅力をはじめ、遠方まで日曜日毎に手弁当で出かけ、地道に根気よく書き写すという研究に傾ける並々ならぬ情熱、研究はあくまでも余暇の利用であり時間制約の中でレベルの高いものを目指していくといった厳しい姿勢、「御同行の精神」「生涯一書生」など教育者としての揺るぎない信条などを気迫に満ちた熱い語り口でお話いただきました。

また、声を失うという苦渋や警告知に対しても強い信念と目標を持って挑み、困難の一つひとつを克服し目標を達成していらっしゃった先生の超然としたお姿は、参加者一人ひとりの人生の歩み方に大きな示唆を与えていただきました。

2014年度 教育資料ロビー展（予定）

場所：文教会館1階ロビー 無料

No.	期間	展示名	内容
79	3/21(金)～4/9(木)	文教会館所蔵資料公開展	平成25年度取集品の紹介
80	4/12(日)～27(日)	学校の一年をふり返る	平成25年度の県立学校等の刊行物紹介
6月～1月 特色ある学校の活動 (20校予定)			
81	5/1(木)～14(木)	県立金沢泉丘高等学校 県立羽咋工業高等学校	A1プロジェクト(課題研究)の研究結果ポスター展 学校活動紹介
82	5/17(土)～27(木)	県立錦城特別支援学校 県立小松特別支援学校 県立小松瀬田特別支援学校	児童生徒の制作品 小松特別支援学校学校紹介 見てさわって感じて、書きつくった作品群
83	5/30(金)～6/11(木)	県立野々市明倫高等学校 県立金沢二木高等学校	明倫新聞 二木高校紹介
84	6/14(日)～29(日)	県立寺井高等学校 県立金沢伏見高等学校	寺井高校美術工芸作品展 学校紹介
85	7/2(水)～16(木)	県立工業高等学校 県立津幡高等学校	県立工業高等学校工芸科実習作品展 学校生活の様子
86	7/19(土)～8/5(木)	県立内灘高等学校 県立門前高等学校	学校紹介 本校のボランティア活動
87	8/8(金)～25(日)	県立田鶴浜高等学校 県立医王特別支援学校	看護と福祉で地域に貢献する学校 学校紹介
88	8/29(金)～9/15(日)	県立鶴来高等学校 県立穴水高等学校	本校70年の歩み 小さくともキラリと光る学校
89	9/19(金)～10/6(日)	県立七尾東雲高等学校 県立いしかわ特別支援学校	地域を支える人材の育成 いしかわ特別支援学校の教育活動
90	10/10(金)～27(日)	県立小松工業高等学校 県立盲学校	小松工業高校の活動 盲学校紹介
91	11/1(日)～7(金)	「いしかわ教育ウィーク」関連行事	
92	11/12(水)～30(日)	県立翠星高等学校 県立能登高等学校	農業高校の特色ある教育活動 能登高校の魅力紹介
93	12/4(木)～23(火)	県立七尾高等学校 県立明和特別支援学校	いしかわニュースーパーハイスクール スーパーサイエンスハイスクール海外研修報告 明和特別支援学校の紹介
94	1/7(木)～26(日)	県立小松明峰高等学校 県立輪島高等学校	明峰歳時記 地域と連携した学習活動
95	1/30(金)～2/16(日)	県立小松商業高等学校 県立金沢北陸高等学校	小商フェスティバルおよび生徒会行事 岩手県立高古工業高等学校との交流
96	2/20(金)～3/8(日)	文教会館所蔵資料公開展	文教会館所蔵品より
97	3/12(木)～24(火)	平成25年度文教会館のあゆみ	自主事業の写真展示 等

～ロビー展のご案内～



県立学校等の刊行物紹介
(生徒会誌・学校新聞等)



特色ある学校の紹介
(県立錦城特別支援学校)

当館1階ロビーでは、年間を通して取集資料や県立学校の活動の紹介等の小展示会を開催しています。

この他にも随時、教育関係団体の活動紹介や写真展、児童の作品展示なども行っています。ぜひ、お立ち寄りください。
★ロビー展に出展を希望される学校や団体は、文教会館までお問い合わせください。

TEL 076-262-7311

★これまでのロビー展の様子は当館ホームページからご覧いただけます。

石川県文教会館

検索

事業紹介

第26回いしかわ県民陶芸展 平成26年1月18日～26日 アートシアターいしかわホール

今年は、小学2年生から88歳の方までと、工芸石川を支える陶芸愛好者の裾野の広さを実感できる数多くのすばらしい作品をお寄せいただきました。作品数は、一般101点、青少年116点、招待作品5点の合計222点にのぼりました。

陶芸展初日の表彰式では、審査員の高光一生氏から「大賞作品や入賞作品には力強さがあり訴えるものがはっきりしている。陶芸を始めるのに遅い早いはなく、夢をもつこと、育った環境や人生経験の中から見つける発想や思い出、執着を大事にして創ってほしい。このような発表の場は、次の創作の可能性を求める場でもあり勇気をもって出品して下さい。」との講評を頂きました。その後、展示会場にて飯田雪峰審査員による作品解説が行われ会場は和やかな雰囲気になりました。

期間中、多くのご来場の皆さまがゆっくりと楽しそうに個性溢れる作品の数々を鑑賞されていました。

26回いしかわ県民陶



高光一生審査員による講評

入賞作品のご紹介



「愛惜」
寺下 陽子
(金沢市)



審査員寸評 「審査員一同が作品の力強さを感じ、同時に作品から受ける手のひらからこぼれ落とさないように生きていく作者の気持ちが伝わってくる最高の作品ですね。」

☆文教会館理事長賞 4点

- ・「オブジェ「ウエーブ」 井村 重和 (金沢市)
- ・「鉄袖香炉「ふるさと」 藤鏡 袿磨 (志賀町)
- ・「虎魚」 出村 由唯 (県立加賀高等学校)
- ・「南天」 武田めぐみ (県立寺井高等学校)



展示会場の様子



飯田雪峰審査員による作品解説

☆石川県教育委員会賞 2点

「黄竜昇天」 宮崎 信一 (金沢市)
審査員寸評 「野焼の良さ。竜がまい上がる力強さ。野焼の現場のけむりの中から登って行く竜を感じ、大地に感謝のメッセージを送っている姿を感じます。」



「秋の夕日」

稲垣そよ・侑輝
(県立七尾特別支援学校高等部)

審査員寸評 「大きな夢を仲間達と語っている様子。話に花が咲いて時を忘れてしまった。若者の心の純粋さを感じます。」



☆ラブロ賞 6点

- ・「おしゃれなカエル♡」 炭谷知苗恵 (能登町)
- ・「ハリセンボン」 谷口 治夫 (穴水町)
- ・「水指(急須型)」 堀江千代子 (加賀市)
- ・「うま年のメリーゴーランド」
能登町立松波小学校焼きものクラブ
- ・「恐竜」 中尾優次郎 (輪島市立大屋小学校)
- ・「モンスターワールド」 村田 宗史
(県立七尾特別支援学校珠洲分校高等部)

アートシアターいしかわ

平成26年3月16日(日)閉館

閉館にあたってのご挨拶

日頃より「アートシアターいしかわ」をご愛顧賜り誠にありがとうございます。
このたび平成26年3月16日(日)をもって幕を降ろすこととなりました。

「アートシアターいしかわ」は、県民に身近な文化活動の場を提供することを目的に昭和62年、旧大和のあとのラブロ片町7階に文教会館の姉妹館として開館いたしました。以来、200人収容のホールをはじめとして、ギャラリーやサロン等の貸付を行うとともに、ラブロ市民コンサートや教職員美術展、落語寄席など各種自主事業を展開し、教育文化活動や作品展示、研修の場として幅広くご利用いただいております。

27年間の長きにわたり、県民の皆さまからご支援、ご愛顧を賜りましたことに心より感謝し御礼を申し上げます。

なお、これまで当ホールで開催してまいりました「いしかわ県民陶芸展」は、今後は文教会館に場所を移して開催する予定ですので引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2014年度 文教国際理解講座のご案内

-ネイティブスピーカーによる
簡単な語学講座です-

講座	内容	曜日	講座時間 (100分)
英米文化初級	挨拶程度の会話をしよう (英検3級程度)	木 木	10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化準中級	英語で簡単な会話ができるように (英検準2級程度)	火 水 水 木	18:30~20:10 10:00~11:40 18:30~20:10 10:00~11:40
英米文化中級	英語で日常の会話ができるように (英検2級程度)	火 水 木	10:00~11:40 10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化上級	日本語同様に会話ができるように (英検準1級程度)	火	18:30~20:10
韓国文化初級	韓国文化やハングルに親しむ	水	19:00~20:40

実施期間：2014年5月7日(水)
～2015年2月26日(木)
対象：教職員 一般 高校生
定員：1講座20名
受講料：年額36,000円(年35回)
(教材は実費負担)
応募期間：2014年3月10日(月)
～4月10日(木)



外国の言葉や文化
を学ぶひとときを
ぜひお楽しみくだ
さい。



申込方法：文教会館までお問い合わせください。 TEL (076) 262-7311

※当館のホームページから申込書をダウンロードできます。

石川県文教会館

検索

2014年度 文教アートウェイブのご案内

-演劇・演奏会・リサイタル等にご利用ください-

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費無料でホールをお貸ししています(照明設備費等有料)。リハーサルを含む3日間(連続)までご利用できます。

詳しくは、文教会館事業課 TEL (076) 262-7311までお問い合わせください。

【2015年度 公演募集期間】 平成26年5月1日～9月30日

<今後の公演予定>

42回	県立金沢伏見高等学校吹奏楽部定期演奏会 ◇入場料：無料	3月22日(土) 14:00～(開場13:30)
43回	劇団週末クラブ公演「チェンジ・ザ・ワールド」 ◇入場料：一般1,000円 高校生以下500円(当日各200円増)	3月30日(日) 14:30～(開場14:00)
44回	金沢放送合唱団創立65周年・第50回記念演奏会 ◇入場料：一般1,500円 中高生1,000円	5月17日(土) 15:00～(開場14:30)
45回	光田健一 トリオ・アルブル trio arbre (ピアノ・フルート・他) ◇入場料：3,500円(当日4,000円)	6月8日(日) 14:00～(開場13:30)
46回	真夏のミルフィーユ(メソソプラノ：鳥木弥生 フルード：川口晃 ハープ：上田智子) ◇入場料：一般2,000円 高校生以下1,500円(当日各500円増)	8月9日(土) 16:00～(開場15:00)
47回	金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマスコンサート ◇入場料：無料	12月21日(日) 17:30～(開場17:00)
48回	パレエの街コンサート2015 ◇入場料：一般2,000円 中学生以下1,000円	平成27年1月18日(日) 14:00～(開場13:30)
49回	いしかわフルートフェスティバル ◇入場料：1,000円	平成27年3月22日(日) 14:00～(開場13:30)



第39回いしかわフルートフェスティバル2013



第41回パレエの街コンサート

今年もすばらしい公演をお届けします。皆さま、お問い合わせの上、ぜひご来場ください!

★公演の日時等が変更になる場合がございます。
★応募や公演予定の詳細は、当館ホームページからご覧になれます。公演申込書もダウンロードできます。

2014年度 「教育文化研究会」募集のご案内

対象：教職員、一般

※参加ご希望の方は、文教会館事業課までお電話でお申し込みください TEL.076-262-7311

	研究会名	定員	年会費	内容	日時
I	もっと知りたいアジア	10	5,500円 全11回	地理、歴史、時事問題、料理等を楽しく学習する	第2土曜日 14:00~16:00
II	源氏物語を楽しむ	10	11,000円 全22回	村山リウの語りをはじめ、様々な文献にあたり古典の奥深さを味わう	第2・4土曜日 10:00~12:00
III	茶道入門教室	10	11,000円 全22回	簡単なお手前、作法を1年間で学ぶ	第1・3月曜日 12:00~16:00
IV	中世芸能研究会	7	18,000円 全36回	初心者謡曲入門	第1・2・3火曜日 18:00~19:00
V	近世芸能研究会	15	15,000円 全30回	初心者詩吟入門	第1・2・3木曜日 18:00~19:00

※文教国際理解講座・文教アートウェイブ・教育文化研究会は、「いしかわ県民大学校」の連携講座です。

